

地熱開発の先進事例を研修

阿蘇山西部地域（湯の谷、吉岡地区）の地熱資源の活用について検討している村阿蘇山西部地域地熱資源活用協議会の16人が、11月3～5日にかけて地熱開発の先進地である秋田県湯沢市などを視察研修しました。協議会は、有識者、村議会総務常任委員会、関係区長、熊本県などで組織。昨年に引き続きの研修となりました。

秋田県湯沢市

湯沢市が位置する山形県と宮城県の県境付近は、国内でも有数の地熱地帯。市内には温泉が点在し、いって湯“の宝庫”。

昭和40年代から国主導による地熱調査が広範囲に行われ平成6年3月東北電力㈱上の岱地熱発電所（認可出力28,800kW）が運用を開始。20年経過した今日でも安定した出力を維持しています。

上の岱地熱発電所の周辺では、3カ所の地熱開発計画が進行中。うち1件は平成31年5月の運用開始を目指し、発電所の建設工事に着手しようとしています。

市では、地熱を温泉以外の産業にも積極的に活用。「水耕ミツバハウス



水耕ミツバハウス

ス」は、約80度の源泉をハウス内に引き込み、ハウス内の保温後、水耕ベットの内の水を温め、最後は豪雪地帯であることからハウス外の融雪に利用するなど3段階にわたり活用。「地熱利用農産加工所」は、原料となる野菜を細かく切断後、約80度の源泉で湯がき、温泉熱を使って乾燥チップ野菜（大根、りんご、かぼちゃなど）を生産しています。

今後、市では地熱発電所の建設だけでなく、地熱発電所と周辺温泉地との共存共栄を図りながら、電力を地域内で利用する取組みなど、地



地熱利用農産加工所



上の岱地熱発電所の生産井

域活性化への起爆剤となることを期待していました。

統計調査にご協力ください (2015年農林業センサス)



農林水産省では、2月1日現在で「2015年農林業センサス」を実施します。

農林業センサスは、農林業の実態を明らかにし、国や都道府県、市区町村はもちろん各方面にわたり、広く利用できる総合的な統計資料を得るための調査です。

全国の農家や林家をはじめ、すべての農林業関係者を対象に行われる『農林業の国勢調査』ともいえるべきものです。

皆様のお宅や会社などに調査員が調査に伺いましたら、ご協力をお願いします。